

## 68 期 1 学年 江風探究ユニット⑤（論文作成）について

「68 期 1 学年 江風探究ユニット 実施計画」（5 月職員会議資料）に基づいて、以下の通り、ユニット⑤を実施する。

探究テーマ：「新潟市からの挑戦状（5 テーマ）について行った探究活動を、論文にまとめよう！」

目 的：「新潟市からの挑戦状（5 テーマ）」（※）について行った、仮説の設定から実証に至るまでの一連の探究活動（江風探究ユニット③）を、論文にまとめることによって、2 年次の課題研究にもつながるような表現力と思考力を養う。 ※新潟市からの挑戦状（1 健康寿命延伸、2 雇用創出、3 農業・食文化の発展、4 持続可能な公共交通の構築、5 インバウンドの推進）

日 程：2 月 6 日（水）7 限 LHR	事前指導
2 月 7 日（水）～3 月 1 7 日（日）	各自で論文の作成
3 月 1 8 日（月）SHR	論文の提出期限

方 法：2 月 6 日にクラス担任が、江風探究ユニット③のワークシートを返却し、論文の手引きと原稿を配布する。生徒は手引きに従って、3 月 1 7 日までに論文を作成する。なお参考資料を別に添付することとする。

論文の構成：①表紙（タイトル、班・学年・組・氏名）

②序論（研究背景・研究目的・研究意義）

③研究手法

④結果・考察

⑤結論・展望

⑥引用文献・参考文献

⑦付録

①表紙 （タイトル、 班・学年・ 組・氏名）	<p>タイトルは、次の点に留意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何の研究を行ったかが分かり、かつ興味を引くものにする。</li> <li>・どのような着眼点で研究を行ったのかが分かるものにする。</li> <li>・同じ分野の他の論文との違いを際立たせる。</li> <li>・補足情報はサブタイトルにする。</li> </ul>
②序論 （研究背景、 研究目的・研 究意義）	<p>序論では、次の点に留意して、研究背景、研究目的、研究意義を、簡潔にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究背景は、自分が選択した研究テーマとその現状について説明する。初見者にも研究内容が分かるよう、必要な知識を紹介する。また、その研究テーマから、どのようなリサーチクエスチョンを立てたのか、説明する。</li> <li>・可能であれば、先行研究や過去の取り組みから、解明・解決の内容と、未解明・未解決の内容を明らかにする。</li> <li>・研究に取り組むことでどのような貢献が想定されるか、研究意義について述べる。</li> <li>・リサーチクエスチョンに対して、どのような仮説を立てたのか、説明する。また、その根拠も示す。</li> <li>・その仮説を、どういう立場や着眼点で実証するのか、簡単に示す。</li> </ul>
③研究手法	<p>研究手法を書く意義は 2 つある。1 つ目は、行った研究手法の妥当性を示すためだ。2 つ目は、読者が研究を再現できるようにするためである。後輩が研究を受け継ぐことも考えられる。そのためにも手法を明記しよう。次の点に留意すること。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査、実験で何をしたいか明らかにすることで、研究の目標を具体的に示す。</li> <li>・どのような手順で調査、実験を進めたのか詳細に示す。</li> </ul>
④結果・考察	<p>得られた研究結果と、それをもとにした考察を示す。</p> <p>【結果に示す内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい形でまとめたデータ</li> <li>・個々の結果の説明</li> <li>・個々の結果の要約（例「要するに〇〇ということだ」）</li> </ul> <p>【考察に示す内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果に含まれる事実</li> <li>・次の研究につながる問い</li> <li>・結論を導く（詳しい説明は次の「⑤考察」で行う）</li> </ul> <p>例</p> <p>〔考察１〕 結果１→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察２〕 結果２と４→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察３〕 結果３→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察４〕 結果５→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p> <p>〔考察５〕 結果６と７→ 言えることは何か → 新たな問い → 推測 → 新たな問い……</p>
⑤結論・展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結論はリサーチクエスションへの答えを示すまとめの部分である。</li> </ul> <p>例 〔考察１〕・〔考察２〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠①</p> <p>〔考察３〕・〔考察４〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠②</p> <p>〔考察５〕によって、〇〇ことが分かった。……根拠③</p> <p style="text-align: center;">▽</p> <p>〔結論〕「これら３つの根拠（①～③）から、高い可能性で次のような結論を導くことができる。その結論とは、〇〇ということだ。よって、私たち〇班が設定した仮説は……」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展望は、この研究結果によって、今後どのような展開があるかを記す部分である。考察の中で立てた新たな問いから、新たな研究が考えられる場合は、それを示す。</li> </ul>
⑥引用文献 参考文献	<p>書き方は次の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット：作成者（公開年）、「Web ページのタイトル」、URL</li> <li>・新 聞：新聞名（掲載年）、「記事のタイトル」、地域、掲載日</li> <li>・書 籍：著者（発行年）、『書名』、出版社</li> </ul>
⑦付録	<p>本章で書ききれなかった補足内容があればここに示す。図表や印刷した参考資料等があればここに添付してもよい。</p>

#### 備 考：

- ・論文にまとめる際には、グループ学習で行ってきた内容（ワークシートやポスターの内容）だけでなく、自分独自の新たな何かを盛り込むようにする。自分独自の観点、自分が新たに書籍等で調べたこと、自分独自の考察などを付け加える努力をする。
- ・今回の研究内容および研究手法が、２年次の課題研究につながっているので、２年次の課題研究も見据えて、論文作成を行う。
- ・返却されたワークシートは、ガバットファイルにとじて、卒業まで各自で保管する。
- ・２年次の課題研究については、２月２７日（水）７限LHRに説明会を行う。なお、同日５・６限に今年度２学年のSSH成果発表会がある。参考にすること。

## 68 期 1 学年 江風探究ユニット 実施計画【抜粋】

県立新潟南高等学校 SSH 総務部 主任 新野 貴大

## (1) 江風探究ユニット展開と、主として身に付けさせたい能力について

	資料を 活用する能力	探究力					
		課題発見力	仮説設定力	計画力	実証力	考察力	表現力
①	◎						
②		◎	◎				
③	○		○	◎	◎	◎	
④							◎
⑤		○	○	○	○	○	◎

## (2) 取組の内容

## 【ユニット①】 実施：４月～５月

- 国語総合の授業３時間で実施。図書館と連携し、**文章読解力**や**資料を活用する能力**等を身に付けさせる。
- クラス単位でスピーチによる発表を行う。

## 【ユニット②】 実施：７月４日(水)・７月末（23日(月)・24日(火)のどちらかで１時間）

- ７月４日(水)LHR。４名程度×10班（５テーマ×２）で実施。生活する中で感じる新潟市の課題と、そう感じる根拠**（課題発見）**、および、それを解決するための方策として考えられること**（仮説設定）**を、A3で１枚程度にまとめる。資料は用いず、ヒントも与えない。発表はクラス単位で任意。
- ７月末に新潟市の担当者による講演会を実施。ここで、『新潟市からの挑戦状』（分野振り分けなどはこちらで作成したもの）を生徒に向けて提示していただく。

## 【ユニット③】 実施：２学期中間考査終了後（10月初旬～中旬）

- ユニット①における『新潟市からの挑戦状』を受け、各クラス４名程度×10班で各班一つずつテーマを担当する。以下のテンプレートを当てはめたワークシートを用いて探究活動の流れに沿って展開する。

◇	<b>（仮説設定）</b> ：どのような方策により、どのような効果があるかを考え、提案する。
◇	<b>（計画）</b> ：仮説の裏付けをするためにどのような資料を収集するかを検討する。
◇	<b>（実証）</b> ：収集した資料から、仮説の裏付けとなるデータを抜き出し、集約する。
◇	<b>（考察）</b> ：データの分析から、仮説の真偽を検証し、結論づける。

- ワークシートの写しを新潟市の担当者に送付する。

## 【ユニット④】 実施：２学期末考査終了後（12月初旬～中旬。スピーチコンテストは10月頃実施）

- ユニット③で出した結論を、模造紙１枚にまとめてポスターセッションを実施する**（表現）**。学年単位。新潟市の担当者に評価者として参加してもらう。
- 英語科の授業と連携し、スピーチコンテストを活用する**（表現）**。

## 【ユニット⑤】 実施：学年末考査終了後（2月下旬以降）。入検期間の課題も兼ねる

- ユニット④までの内容を、テンプレートに従って簡潔に論文形式でまとめる**（表現）**・**（まとめ）**。班単位の活動ではなく、各自で取り組む。
- 論文の写しを新潟市の担当者に送付する。